

## 第9回桃山学院大学・啓明大学校国際学術セミナー

### ——報告と討議の概要——

桃山学院大学と啓明大学校間の第9回国際学術セミナーは、啓明大学校より全景泰団長以下5名（付Ⅰ参照）を迎え、去る12月19、20の両日、本学聖アンデレ館で開催された。

今回より、統一テーマを「日韓社会・経済比較」として、セミナーを開催することになった。報告者、発表テーマ、司会者、通訳者等は付Ⅱのプログラムの通りである。報告と討議の内容については、該当箇所にそれぞれ譲るとし、以下では今回セミナーの経過を中心に触れたい。

啓明側一行は、12月18日 JL-968便で16時45分大阪国際空港に到着。研究所より所長、徐担当委員、課長が出迎え、宿舎「ホテル南海さかい」に投宿。夕食の後、セミナー等のスケジュールと運営協議会議事案についての予備的打ち合わせを行った。

2日間にわたるセミナーでは、報告と質疑・討議が熱心に繰り広げられた。今回は、両日も報告者は3名であったが、報告者、司会者の協力をえて、概ね予定どおりに進行した。

第1日目（19日）セミナー後、ホテルで学長主催の歓迎レセプションが催され、稲別学長を始め桃山側11名、啓明側5名が出席のもとに、両大学間の交流が深められた。

第2日目セミナー終了後、懇親パーティが行われ、多くの参加者の下に交流の輪が広がった。パーティ後、第8回セミナーの際に大邱でお世話になった有志を中心に、二次会も持たれた。懇親パーティとはまた違った形で話がはずんだ。

第3日目は、旧奈良市内と西の京の観光であった。セミナーの緊張感もなく、ゆったりと古都の一日を満喫した。その夕方、運営協議会后、食事を共にしながら、今回セミナーの反省と今後の在り方についても、率直な意見の交換がなごやかな雰囲気の中で行われた。

翌12月22日、国際センターの希望もあり、午前中国際交流（学生交流、学術交流）について協議を行った。啓明側は朴国際部長、全代表団長、崔助教授の3名、桃山側は中田国際センター長、鈴木博信センター委員、大谷センター課長と研究所長の私が出席した。午後は、啓明側の上記3名の希望で、COM（箕面市、旧大阪テキスタイル・センター）と新大阪繊維シティの訪問調査を行った。大邱が韓国繊維産業の中心地であることから、逐一メモをとり、この調査に一行はかなり強い関心を示していた。その背景には、啓明大学校の産業経営研究所が、大邱市より、産業構造の改造について調査の委託を受けているという事情があるようだ。一行3名はその夜本学ワレン館に宿泊し、翌早朝東京に向かったため、まだ暗い5時40分にワレン館でお見送りした。

今回のセミナーで感じたことのなかで2つの点についてのべよう。まず、セミナーも第9回目を迎え、やっと実質的な意味での共同研究が芽生えつつある点があげられる。

(1) 今回の啓明大学の崔助教授の報告は、韓国に進出した日本企業の経営に関するものであったが、同氏は、本学総合研究プロジェクト（鬼塚光政代表）の海外協力者（論文寄稿予定者、1987年12月に依頼）の一人である。同プロジェクトでは、12月22日夜、このための打ち合わせをかねた同氏との懇談会を持った。12月21日、両大学運営協議会終了後、総合研究所元所長の植村省三大阪市立大学教授が来られ、崔助教授との間で熱心な意見の交換があった。崔氏の報告の中に、植村氏の著作への言及が随所でみられた。植村氏の著書『組織の理論と日本的経営』は、金鋪淇元啓明大学校教授の翻訳でそのハンダ版が刊行されており（1986年）、韓

国でもかなりよく知られているようだ。これも両大学間の交流の成果の一つといえる。

(2) 今回の報告者西川一廉氏のグループは、勤労者のライフ・スタイルに関して、日韓比較の共同研究を強く望んでおり、啓明一行到着の12月18日の打ち合わせの際、啓明側代表団に、この意向を西川氏自ら伝えてもらった。研究所としてもこの企画に対して側面から援助をしたいと考えている。

次は今回の啓明側一行についてである。

昨年11月に産業経営研究所長になった金柄夏教授（桃山で開催した第5回セミナーの啓明側発表者）は、現在韓国経営史学会の会長であり、同学会の年次大会とセミナーが重なったため、残念ながら今回来日できなかった。しかし来日した5名は、いずれも海外で長年にわたる研究歴のある40歳前後の研究者であった。留学先がアメリカ2名、フランス1名、ドイツ1名、オランダ（およびニュージーランド）1名といっ

た多才な顔ぶれであり、いずれも英語に堪能であり、将来啓明大学内ではもとより、学会等でその活躍が期待できる人々である。

今回のセミナー開催にあたって、研究所委員、職員はもとより、報告者、司会者、通訳者、参加者等、さまざまな形でお世話になった方々に感謝の意を示したい。この度も忘れてならないことは、啓明側が報告論文に日本語の翻訳を付けて送ってくれたことだ。これが、参加者にとってはもとより、通訳者にとってもどんなに有益であったことだろうか。啓明側関係者の配慮と翻訳の労をとって下さった金鏞淇先生（退官後産業経営研究所特別所員）にはとくに謝意を表したい。

編集上の都合で、この号には桃山学院大学の報告者3名の論文を掲載し、啓明大学校の報告者については次号に載せる予定である。

（伊代田 光彦）\*

---

\* 本研究所前所長

付Ⅰ 啓明大学校代表団

全景泰 産業経営研究所幹事，社会科学大学貿易学科助教授  
 朴命鎬 国際部長，経営大学経営学科副教授  
 崔晩基 経営大学経営学科助教授  
 李鍾昨 社会科学大学社会科学助教授  
 李孝永 社会科学大学貿易学科助教授

付Ⅱ 第9回桃山学院大学・啓明大学校国際学術セミナー・プログラム

第1日 1988年12月19日（月）

9：40 開会の挨拶 総合司会・通訳 桃山学院大学経営学部 徐 龍 達  
 桃山学院大学長 稲別 正晴  
 啓明大学校産業経営研究所幹事 全 景 泰  
 10：00 第1部 司会 桃山学院大学社会学部 清水 由文  
 通訳 大阪市立大学大学院 韓 美 賢  
 テーマ 老人の健康度と同居・別居  
 報告者 桃山学院大学社会学部 古谷野 亘  
 12：00 昼食  
 13：00 第2部 司会 桃山学院大学経営学部 榎本 世彦  
 通訳 大阪市立大学大学院 韓 美 賢  
 テーマ 現代日本における勤労者のライフ・スタイル  
 について——その心理学的考察——  
 報告者 桃山学院大学社会学部 西川 一廉  
 15：15 第3部 司会 桃山学院大学経営学部 海道ノブチカ  
 通訳 大阪市立大学大学院 梁 官 洙  
 テーマ 韓国の労使葛藤とその展望  
 報告者 啓明大学校社会科学大学社会科学 李 鍾 昨  
 17：15 終了  
 18：00 学長主催レセプション（関係者のみ）  
 20：00 終了

第2日 12月20日（火）

10：00 第4部 司会 桃山学院大学経済学部 蒔谷 硯児  
 通訳 神戸商科大学大学院 崔 桂 鳳  
 テーマ 日米経済摩擦と日本金融資本の海外進出  
 報告者 桃山学院大学経済学部 鈴木 健  
 12：00 昼食  
 13：00 第5部 司会 桃山学院大学経営学部 稲垣 慶成  
 通訳 神戸商科大学大学院 崔 桂 鳳  
 テーマ 韓国に進出した日本企業の経営実態  
 報告者 啓明大学校経営大学経営学科 崔 晩 基  
 15：15 第6部 司会 桃山学院大学経営学部 黒田 兼一  
 通訳 大阪市立大学大学院 梁 官 洙  
 テーマ 韓国における労使紛争の決定的要因分析  
 報告者 啓明大学校社会科学大学貿易学科 全 景 泰  
 17：15 閉会の挨拶 桃山学院大学総合研究所長 伊代田光彦  
 17：30 懇親会（出席者全員）

第3日 12月21日（水）

8：30 見学研修（旧奈良市内と西の京）  
 18：00 両大学運営協議会（難波・東京清香園にて）  
 20：00 終了